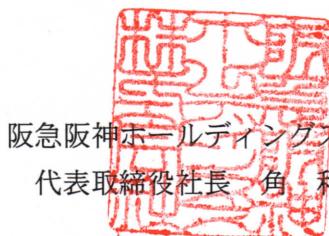
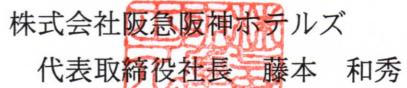


2015年（平成27年）9月10日

一般社団法人 日本建築学会近畿支部
支部長 門内輝行 殿



阪急阪神ホールディングス株式会社
代表取締役社長 角 和夫



株式会社阪急阪神ホテルズ
代表取締役社長 藤本 和秀



宝塚ホテル本館の建物の保存活用に関する要望書について（回答）

猛暑の候、貴会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は弊社グループの事業につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成27年7月15日付にてお寄せいただきました、「宝塚ホテル本館の建物の保存活用に関する要望書」において、同ホテルの文化的意義と歴史的価値について高く評価をいただき、厚くお礼申し上げます。

現宝塚ホテルは京阪神初の洋館ホテルとして創業し、89年の永きに亘り多くのお客様にご愛顧いただいて参りました。また、地域の多くの人々に親しまれ愛される、宝塚地域のシンボル的な建築物として今日まで存在して参りました。

しかし、築89年を経過した現在、建物の老朽化が進み、現行法に基づく耐震性能を満たしていないなど、防災等の観点から引き続きお客様の利用に供し続けることは、大変厳しい状況にあります。また、建物の現在の姿を保存しながら改修し活用することは、相当期間の部分休業が必要でお客様にご迷惑をおかけすること、たとえ改修しても物理的な限界からお客様に高品位の空間・機能をご提供するのが難しいこと、ホテルの経営上の負担が大きいこと等を総合的に勘案し検討した結果、やむなく移転建替えによる事業継続を決断した次第です。

新ホテルは、阪急阪神ホールディングスグループにおける最大の集客施設のひとつである宝塚大劇場の近傍に建設することを予定しており、宝塚歌劇との連携を強化することによって、グループ全体の魅力をより多くのお客様に発信することができる「新しい宝塚ホテル」を目指しております。

建物を現在の姿のまま保存活用を図ることはできませんが、その歴史的価値は弊社にとっても貴重な経営資産であると認識しており、今後、内外装の部分的な再利用等について検討して参りたいと考えております。

何卒、事情ご高察のうえ、ご理解賜りますようお願いいたします。

以上